

『平成21年度 学生生活実態調査報告書』

## 関大生 授業出席率が9割を超える

～ 授業への理解度、学生生活の充実度も向上の傾向 ～

関西大学では、平成21年10月から11月にかけて、在学生6,000人を対象にした「平成21年度学生生活実態調査」(回収数:1,926 回収率:32.1%)を、下記のとおり実施しました。

本調査は、本学学生の生活実態を把握することを目的に、昭和30年度より実施しているもので、平成21年度は、教育に対する意識、学校での過ごし方、満足度・不安や悩み、課外活動、旅行・留学、アルバイト・経済状況、ボランティア活動などさまざまな項目について調査を行いました。

今回の調査では、授業出席率が9割を超えるとともに、理解度が向上しているという興味深い結果が見られました。その他、今回と過去の調査を比較し、特徴的な結果について、次ページで詳しく紹介いたします。

### 記

- 1 調査期間 平成21年10月9日～11月10日
- 2 調査方法 学内ポータルサイトでのアンケート方式
- 3 調査対象 学部学生から6,000人を無作為抽出
- 4 調査項目 (1) 基本項目 (7) 病気やケガ  
(2) 満足度・不安や悩み (8) 体育会  
(3) 課外活動 (9) マナーについて  
(4) 正課外講座(ダブルスクール) (10) ボランティア活動  
(5) 旅行・留学 (11) 大学への意見・要望(自由記述)  
(6) アルバイト・経済状況
- 5 回収率 32.1% <1,926人(うち女子887人)/6,000人>

以上

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 広報室広報課 担当: 木村、北谷、小野

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel. 06-6368-0201 Fax. 06-6368-1266

[www.kansai-u.ac.jp](http://www.kansai-u.ac.jp)

### <授業への出席状況・理解度> P14、15

授業への出席状況について、今回調査では76.3%の学生が「ほとんど出席している」と回答し、平成15年度(52.9%)と比べ、23.4ポイントの大幅増となりました。「4分の3程度出席している」(16.7%)と合わせると9割を超え、出席率の高さがうかがえる結果となりました。

また、授業に関する理解度についても、「ほとんどの科目について理解できる」(25.2%)と「4分の3程度の科目について理解できる」(42.7%)を合わせると67.9%となり、平成15年度と比べ13.4ポイント増加しました。

### <学生生活における不安や悩み・充実度> P20 - 22

学生生活における悩みや不安は?という設問に対し、「就職や将来の進路」(85.8%)に続き「学業」(60.9%)「性格や能力」(59.7%)が目立つ結果となりました。

一方で、「経済的問題」と「友人等との対人関係」が、平成15年度より8ポイント増加し、現在の日本社会が抱えている問題を反映しているかのような結果も現れました。

また、学生生活は充実していますかという設問に対しては、3人に2人(66.8%)が充実していると回答し、平成15年度と比較して約10ポイントの増加となりました。

### <クラブ・サークル活動> P23 - 29

クラブ・サークルへの参加状況をみると、今回の調査では62.0%と、平成15年度調査と比べ、14.6ポイント増加しました。また、「以前は所属していたが途中でやめた」学生が14.7%と、平成15年度調査から5.4ポイント低下し、クラブ等所属後の定着率も増加しています。

### <海外旅行・留学> P32、33

海外旅行の経験がある学生は、平成11年度と比べて6.1ポイント増加し、49.5%となりました。ただし、旅行日数は減少しており、短期間(7日以内)の海外旅行が主流傾向にあることがうかがえます。

また、留学経験があると答えた学生は14.4%に達しました。平成4年度(7.1%)平成11年度(10.6%)調査に比べて着実に増加しており、国際部が協定大学を拡大して留学機会を充実させたことや、各学部もそれぞれ独自の留学プログラムを創設するなど、国際化に関する本学のさまざまな取り組みの成果と推察されます。また、平成21年度に開設した外国語学部では、原則として2年次生全員に1年間の留学を課しており、今後も着実な増加が期待されます。

### <マナー> P45

今回の調査で最もマナーが悪いと回答された項目は「授業中の私語」(71.5%)であり、平成15年度と比べて22.9ポイント増え、他の項目と比べて圧倒的に高い結果となりました。授業への出席率が上昇傾向にある中、真剣に講義を受けている学生が、一部のモラルに欠ける学生の行為を迷惑と感じる度合いが高まっているものと考えられます。

その他、「喫煙マナー」や「授業中の携帯電話」「ゴミの捨て方」「食堂でのマナー」等のマナーの悪さについては減少傾向にあります。この結果は、平成19年度から実施している、学生のマナーやモラルに対するキャンペーンや啓発活動に積極的に取り組んでいる成果と推察されます。

### <ボランティア活動> P46、47

学外での活動に関する調査では、13.2%の学生が「ボランティアに参加したことがある」と回答し、平成19年度調査(12.2%)に比べ微増となりました。

さらに、ボランティアに対するイメージを聞いたところ、「社会貢献」(78.7%)「人のため」(65.6%)「優しさ」(43.1%)など、自分以外の誰かのために奉仕することに対し、ポジティブなイメージとして捉える学生が非常に多い結果となりました。